

学校教育における性的指向・性同一性に配慮した HIV 予防教育に関する研究

研究代表者：日高 庸晴（宝塚大学看護学部 教授）

研究協力者：河合 隆次（奈良県高等学校人権研究会 事務局長）

研究要旨

わが国の HIV/AIDS サーベイランス開始以来、男性同性間における HIV 感染とその対策は喫緊の課題である。若年層の MSM における感染の現状がある一方で、学校教育現場において性的指向など MSM の存在を意識したエイズ予防教育は十分に実施されてきていない。男性同性間の HIV 感染予防対策を推進させるためにはセクシュアリティの多様性を人権教育の一環で推進することが有効であると考え、高校教諭らと共に開発した授業案および授業資料をもとに授業実践を行い、その教育効果を授業前後の質問紙調査によって評価・検討した。

A. 研究目的

厚生労働省エイズ動向委員会によれば、2015 年の 1 年間に報告された男性の性的接触による HIV 感染者のうち同性間が 71%であり、男女含めたすべての感染経路を含む HIV 感染者の過半数を占めている。わが国サーベイランス開始以来 HIV 流行の中心は MSM であり、性行動が開始される前の MSM に対しては学校教育を通じて予防行動の必要性を伝えていくことが重要であると考えられる。しかし、筆者らがこれまでに実施した調査によれば、10 代 MSM のおよそ 9 割は男女間におけるエイズ予防教育を学校で受けたことがあるのに対して、男性同性間のそれは 2~3 割程度であることが示されている。つまりわが国の流行状況に応じた予防教育が学校で実践されていないこと、その困難があることが示されているとも言えよう。

MSM におけるいじめ被害率や不登校率、自殺念慮率、自殺未遂率は異性愛者集団と比較して明らかに高率であることは国内外の複数の研究で示され、中学校から高校までの学齢期に性的指向に起因するそれらのライフイベントが発生・集中していることもわかっている。中長期化する学齢期に直面する生きづらさやいじめ被害などを通じて自尊感情の傷付きなどは、予防的保健行動の阻害要因のひとつと考えられるようになっており、HIV をはじめとする性行為感染症の罹患に関連があることも指摘されている。男性同性間における HIV の流行とその対策を視野に入れた教育

を学校でするためには、まずはセクシュアリティの多様性を正しくかつポジティブな情報として教示していくことが不可欠であろう。本研究ではその視点に立脚した上で、MSM 対象のエイズ予防教育の推進に資するために、セクシュアリティの多様性を伝える授業案を開発し、その教育効果を測定することを目的とする。

B. 研究方法

1. 授業案

奈良県高等学校人権教育研究会と共に研究 1 年目からの検討を経て、研究 2 年目に授業案および授業資料を開発、561 名（有効回収数）を対象に予備調査を実施した。研究 3 年目である今年度は昨年度の予備調査を経ての本格実施と位置づけ、授業実施校および対象となる生徒数を増加して実施する。

2. 実施手続き

まず、授業実施当日の朝に授業前アンケートを配布し、授業を行うクラスの生徒に回答を求めた。アンケートの回答は任意であり、日常生活や成績に影響することはないこと、回答したアンケート内容は授業を担当した教員は一切見ず、専門家のみが閲覧することを担任から説明した。アンケート用紙の回収にあたっては、出席番号順ではなく順不同のまま回収し、担任教師がその場であらかじめ用意したのり付き封筒に封入した。

その後、各クラスで実施校の教員が授業案と予

め定めた指導上の留意点をもとに授業（1 時限 50 分）を行った。授業終了直後、授業後アンケートを配布し、授業に参加した生徒に回答を求め、回収・封入した。

3. 授業（介入）対象者

A 県の県立高校の 13 校（1 年生 20 クラス、2 年生 47 クラス、3 年生 6 クラス）の生徒 2,753 人を対象に、2016 年 4 月～11 月に授業と授業前後の質問紙調査を実施した（準実験的研究デザイン）。

4. 設問項目

授業前後のアンケートでは、性の多様性に関する知識、態度、考えについての 14 項目について回答を求めた。また、授業前アンケートには今までのセクシュアルマイノリティに関する学習機会の有無に関する設問（「これまでにセクシュアルマイノリティについて学校で習ったことがある」「これまでにセクシュアルマイノリティについて自己学習したことがある」）を 2 問、授業後アンケートには自由記述項目（授業全体を通して、気付いたことや感想）を 1 問付け加えた。

（倫理面への配慮）

宝塚大学看護学部研究倫理委員会による研究計画の承認を得て実施した。授業実施前後のアンケートでは教員からアンケートが任意回答であることや無回答による不利益は生じないこと、プライバシーの保護について生徒へ説明した。また、授業前後のアンケートの連結は、個人情報の保護の観点から氏名ではなく出席番号によって行った。

C. 研究結果

1. 基礎集計

回収総数 2,753 件のうち、607 件は授業前後の両方に回答していない、生徒番号が記入していない等の理由で無効と判断され集計から除外した。回収データは出席番号で授業前後の回答を紐付けた。

Q1.性別は「男」か「女」の 2 つしかない

授業前に「そう思う／わからない」と回答した生徒（1,444 人）のうち、51.25%（740 人）の生徒が授業後に「そう思わない」と回答が変化した。

全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では 32.71%だったのに対し、授業後では 64.82%と増加した。

Q2.男装は気持ち悪い

授業前に「そう思う／わからない」と回答した生徒（648 人）のうち、46.76%（303 人）の生徒が授業後に「そう思わない」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では 69.80%だったのに対し、授業後では 79.59%と増加した。

Q3.女装は気持ち悪い

授業前に「そう思う／わからない」と回答した生徒（996 人）のうち、44.78%（446 人）の生徒が授業後に「そう思わない」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では 53.59%だったのに対し、授業後では 71.30%と増加した。

Q4.異性を好きになることが当然だ

授業前に「そう思う／わからない」と回答した生徒（1,608 人）のうち、43.91%（706 人）の生徒が授業後に「そう思わない」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では 25.07%だったのに対し、授業後では 55.73%と増加した。

Q5.同性婚（同性同士の結婚）ができてもいい

授業前に「そう思わない／わからない」と回答した生徒（757 人）のうち、43.59%（330 人）の生徒が授業後に「そう思う」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では 64.73%だったのに対し、授業後では 73.77%と増加した。

Q6.性別を変えたいと思うことはおかしい

授業前に「そう思う／わからない」と回答した生徒（573 人）のうち、47.47%（272 人）の生徒が授業後に「そう思わない」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では 73.30%だったのに対し、授業後では 79.96%と増加した。

Q7.自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる

授業前に「そう思う／わからない」と回答した生徒（1,096 人）のうち、41.33%（453 人）の生徒が授業後に「そう思わない」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では 48.93%だったのに対し、授業後では 63.33%と増加した。

Q8.自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる

授業前に「そう思う／わからない」と回答した生徒（914人）のうち、41.79%（382人）の生徒が授業後に「そう思わない」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では57.41%だったのに対し、授業後では66.59%と増加した。

Q9.正直な気持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない

授業前に「そう思う／わからない」と回答した生徒（1,226人）のうち、40.78%（500人）の生徒が授業後に「そう思わない」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では42.87%だったのに対し、授業後では60.25%と増加した。

Q10.正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない

授業前に「そう思う／わからない」と回答した生徒（1,126人）のうち、42.72%（481人）の生徒が授業後に「そう思わない」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では47.53%だったのに対し、授業後では64.40%と増加した。

Q11.正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない

授業前に「そう思う／わからない」と回答した生徒（985人）のうち、44.77%（441人）の生徒が授業後に「そう思わない」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では54.10%だったのに対し、授業後では67.10%と増加した。

Q12.友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる

授業前に「そう思わない／わからない」と回答した生徒（1,048人）のうち、45.99%（482人）の生徒が授業後に「そう思う」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では51.16%だったのに対し、授業後では67.29%と増加した。

Q13.友達から性同一性障害をカミングアウトされたら、受け入れられる

授業前に「そう思わない／わからない」と回答した生徒（978人）のうち、47.75%（467人）の生徒が授業後に「そう思う」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前

では54.43%だったのに対し、授業後では69.43%と増加した。

Q14.「ホモ、レズ、おかま」などの発言は差別語だ

授業前に「そう思わない／わからない」と回答した生徒（1,301人）のうち、49.65%（646人）の生徒が授業後に「そう思う」と回答が変化した。全体で見ると、望ましい回答をした割合が授業前では39.38%だったのに対し、授業後では64.77%と増加した。

D. 考察

14項目全てにおいて授業前後において生徒のもつ性の多様性に関する知識や態度、考えに有意な変化が認められた。それぞれの学校においてその変化は同様の傾向であった。授業前後で尋ねた14項目いずれの項目の授業前後変化は、否定的な望ましくない回答をした生徒の43%～51%が望ましい回答へ変化した。このことは50分程度の1度の授業であっても十分な効果が見込めること、加えてもう1回授業を実施すればさらなる効果があると推測される。また、HIV陽性のゲイ男性の手記を、当事者の手記として盛り込み、グループワークの教材として用いた。当事者の手記を読み込むことによって当事者の置かれているその社会的状況への想像力を養うことにもつながり、異性愛が中心とされる社会の中でゲイ男性が抱え持つ生きづらさや怖さが授業を通じて生徒により深く理解されたと考えられる。

E. 結論

教育現場の教諭らと共に開発した授業案をもとに高校で介入授業を実施し、一定の効果が得られた。今後はこの授業案をもとにした授業の実施とその普及の働きかけが必要である。

F. 研究発表

1. 論文発表 (英文)

1. Matsutaka Y., Koyano J., Hidaka Y. : Perceptions of reducing HIV-preventive behaviors among Men who have Sex with Men living with HIV. AIDS Research and Therapy (投稿中).
2. Nishimura YH., Iwai M., Ozaki A., Waki A., Hidaka Y. : Perceived Difficulties Regarding

HIV/AIDS Services among Public Health Nurses in the Kinki Region of Western Japan: Implications for Public Health Nursing Education in Japan, *Open Journal of Nursing*, 7(3) : DOI: 10.4236/ojn.2017.73033, 2017.

(和文)

1. 津田聡子、日高庸晴：性に関する教育における中学校教員の意識調査-教員の性別・学修経験と苦手意識との関連 -, 思春期学、印刷中、2017年
2. 日高庸晴：思春期に直面するライフイベントとリスク行動、教職研修、教育開発研究所、2：77、2017年
3. 日高庸晴：LGBTの児童・生徒はどれくらいいるのか、教職研修、教育開発研究所、1：77、2017年
4. 日高庸晴監修：セクシュアルマイノリティってなに？、少年写真新聞社、2017年
5. 日高庸晴：性的マイノリティが生きやすい社会とは、母のひろば、童心社、629：4-5、2016年
6. 日高庸晴：ゲイ・バイセクシュアル男性のメンタルヘルス、こころの科学、日本評論社、189：21-27、2016年
7. 日高庸晴：ゲイ・バイセクシュアル男性のメンタルヘルスと自傷行為、精神科治療学、星和書店、31(8)：1015-1020、2016年
8. 日高庸晴：セクシュアル・マイノリティを取り巻く状況、法律のひろば、ぎょうせい、7月号：4-11、2016年
9. 日高庸晴：思春期・青年期のセクシュアルマイノリティの生きづらさの理解と教員および心理職による支援、精神科治療学、星和書店、31(5)：565-571、2016年
10. 日高庸晴：もっと知りたい！話したい！セクシュアルマイノリティ ありのままのきみがいい 3 未来に向かって、汐文社、2016年
11. 日高庸晴ほか：学校・病院で必ず役立つLGBTサポートブック、メディカ出版、68-70・142-145、2016年
12. 日高庸晴：もっと知りたい！話したい！セクシュアルマイノリティ ありのままのきみがいい 2 わたしの気持ち、みんなの気持ち、汐文社、2016年

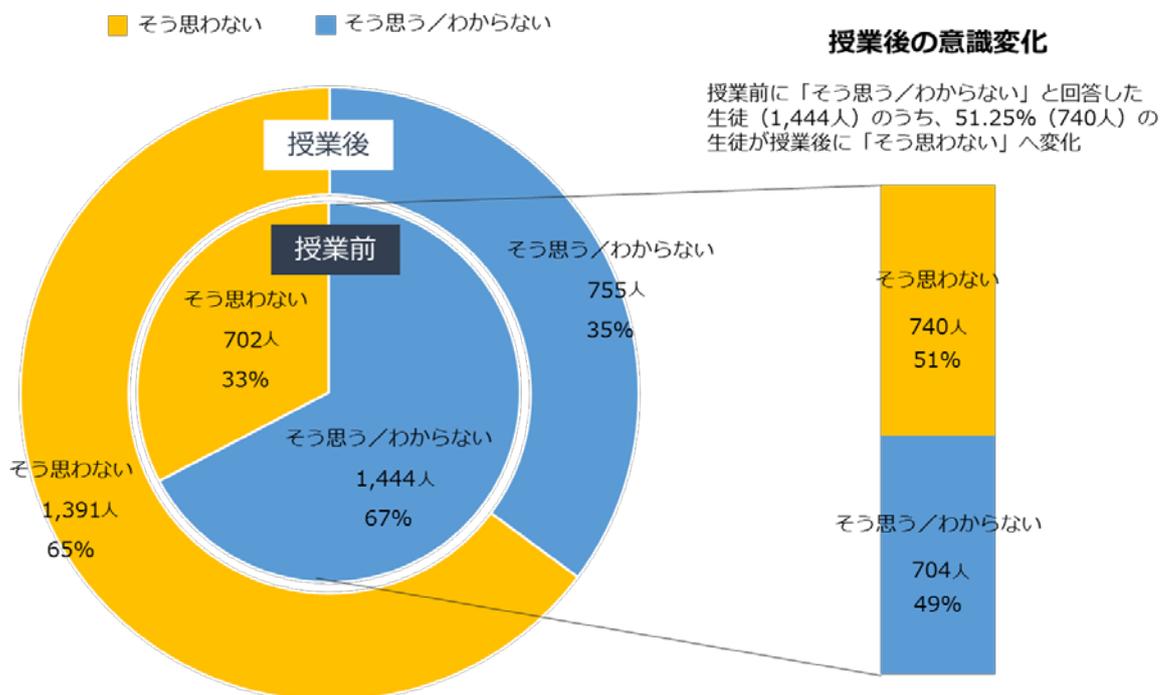
2. 学会発表

(国内)

1. 古谷野淳子、西川歩美、日高庸晴：MSM対象の認知行動面接の保健師への普及について。第30回日本エイズ学会学術集会、2016年、鹿児島
2. 渡邊さゆり、古谷野淳子、松高由佳、長野香、桑野真澄、川口玲、西川歩美、日高庸晴：20代30代未婚女性のコンドーム使用状況と使用を妨げるセルフトークの関連。第30回日本エイズ学会学術集会、2016年、鹿児島
3. 川畑拓也、小島洋子、森 治代、岩佐 厚、亀岡 博、菅野展史、近藤雅彦、杉本賢治、高田昌彦、田端運久、中村幸生、古林敬一、清田敦彦、伏谷加奈子、柴田敏之、木下 優、日高庸晴：MSM向けHIV/STI検査における検査結果と関連付けたリスク行動調査。第30回日本エイズ学会学術集会、2016年、鹿児島。

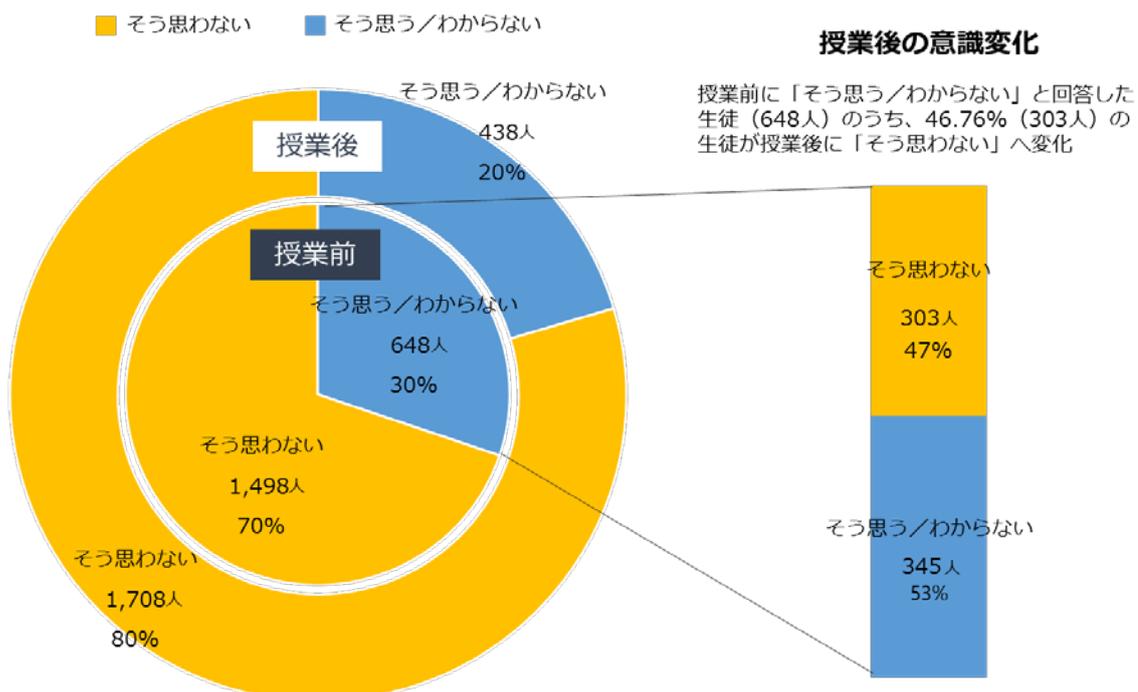
Q1.性別は「男」か「女」の2つしかない

(有効回答数 2,146人)



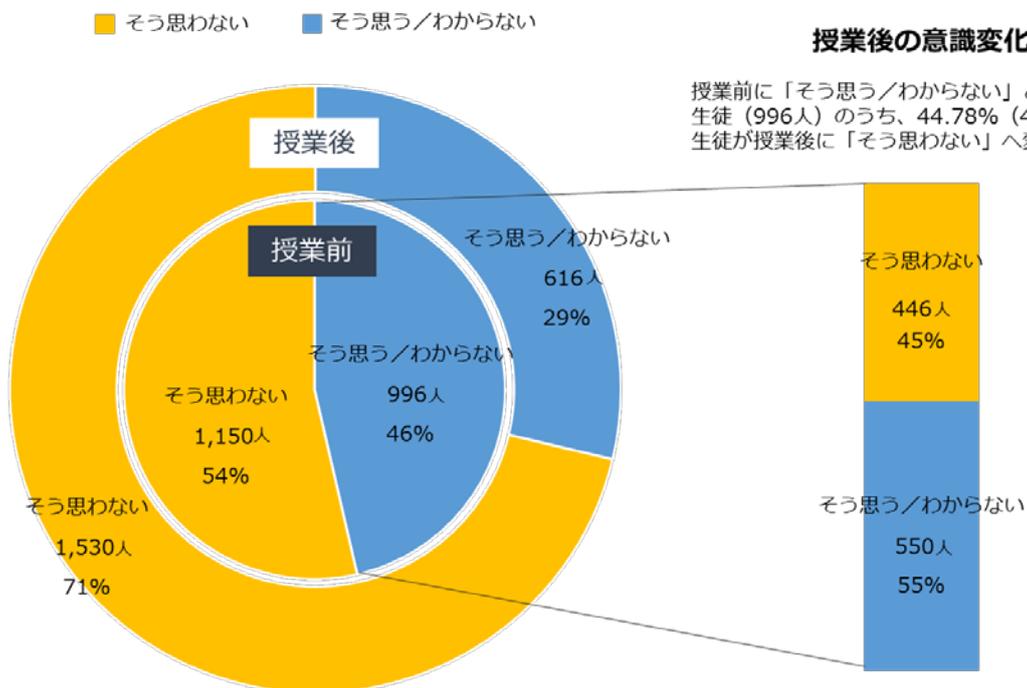
Q2.男装は気持ち悪い

(有効回答数 2,146人)



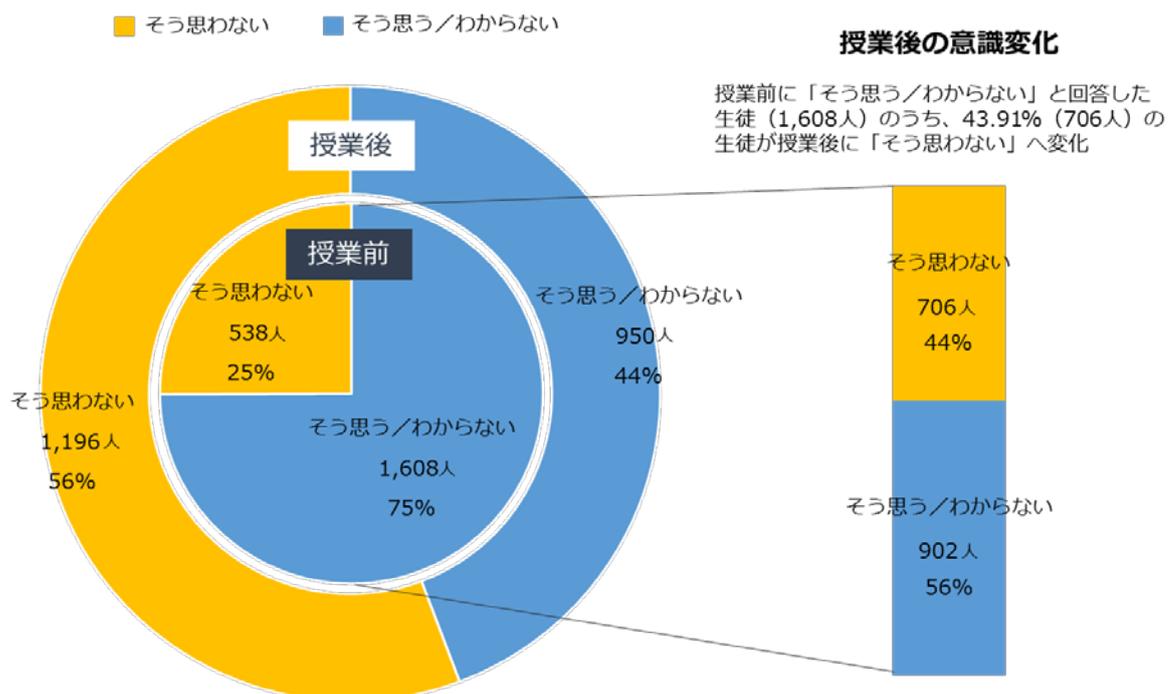
Q3.女装は気持ち悪い

(有効回答数 2,146人)



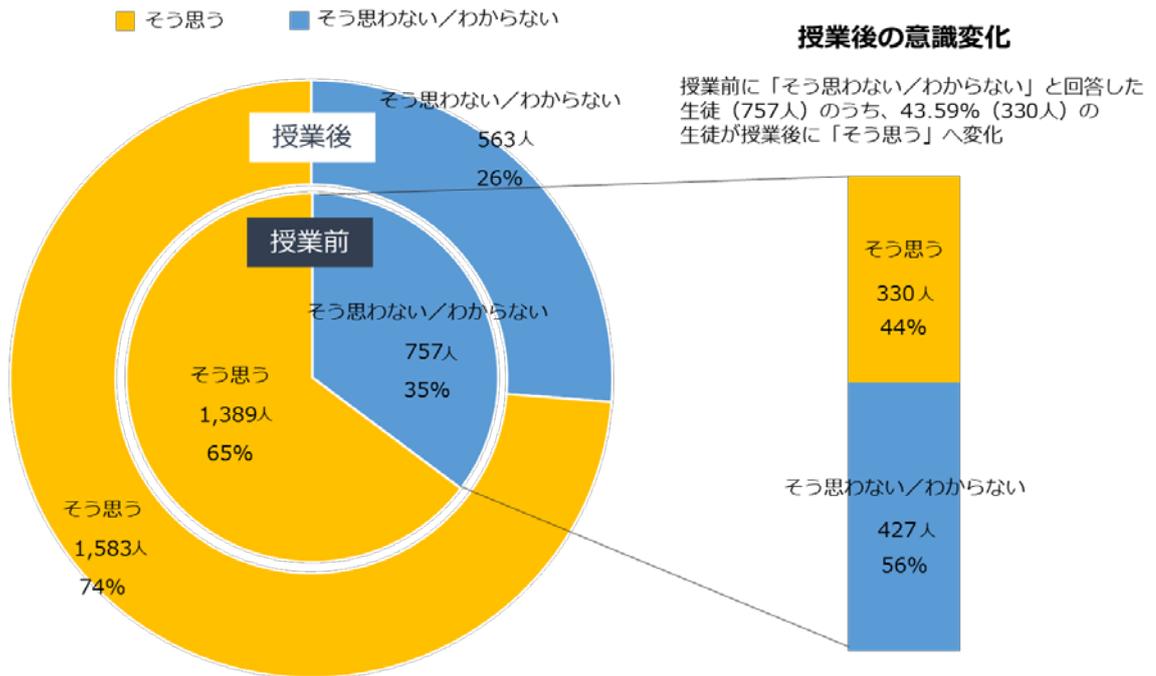
Q4.異性を好きになることが当然だ

(有効回答数 2,146人)



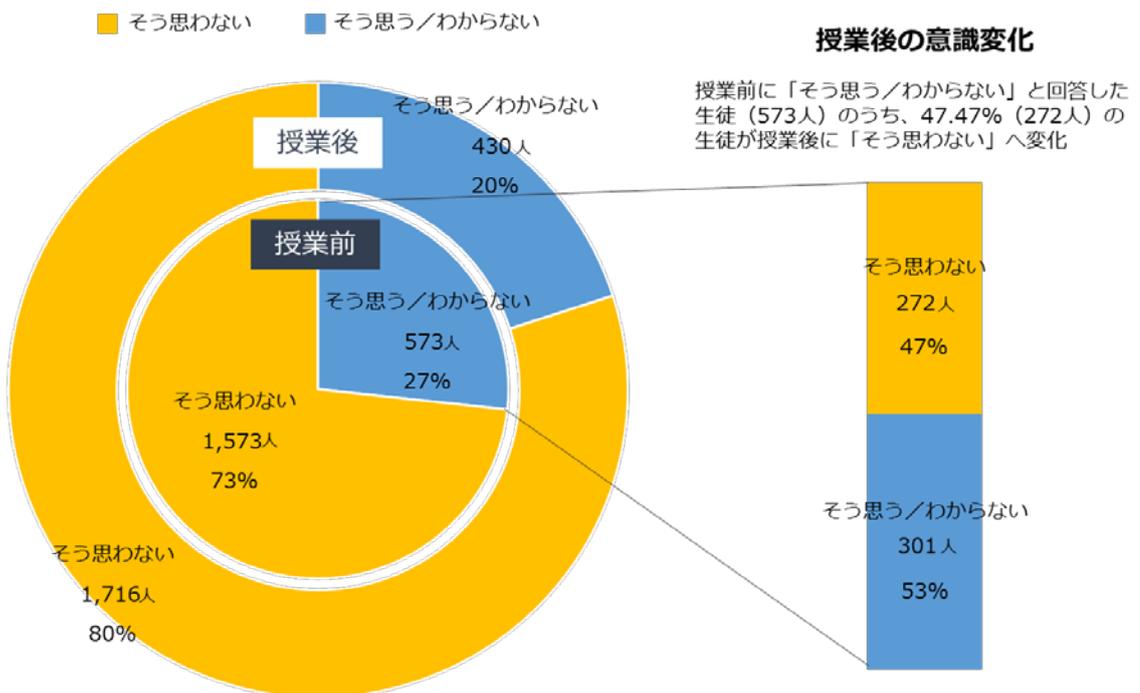
Q5.同性婚（同性同士の結婚）ができてもいい

(有効回答数 2,146人)



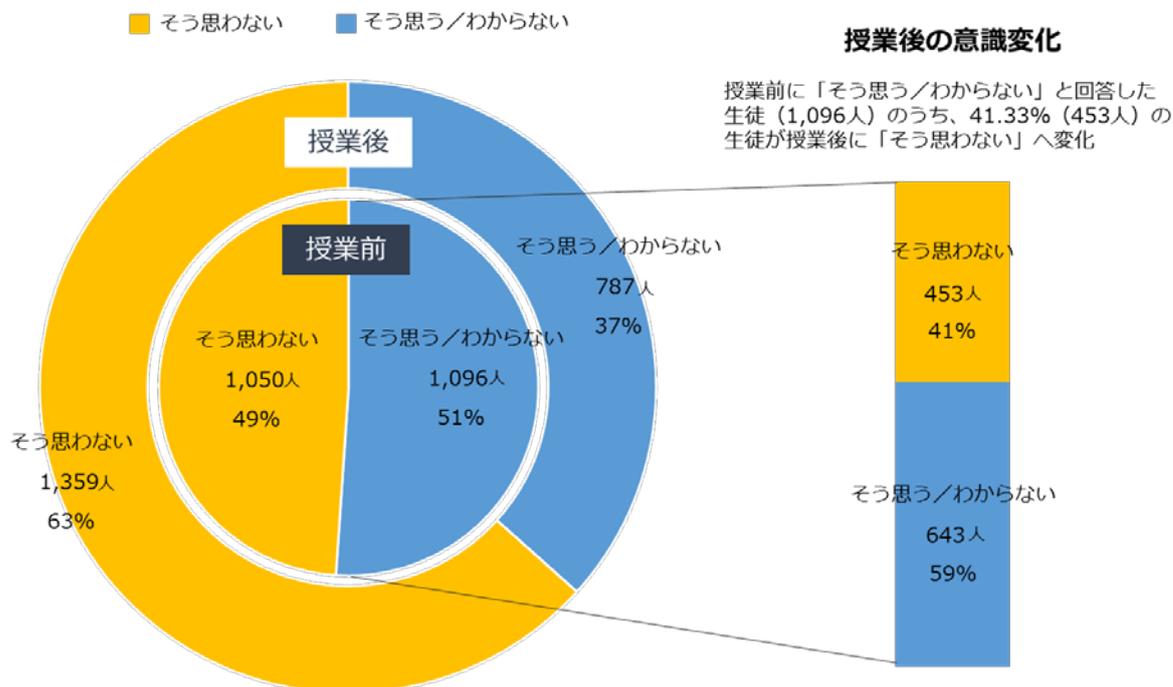
Q6.性別を変えたいと思うことはおかしい

(有効回答数 2,146人)



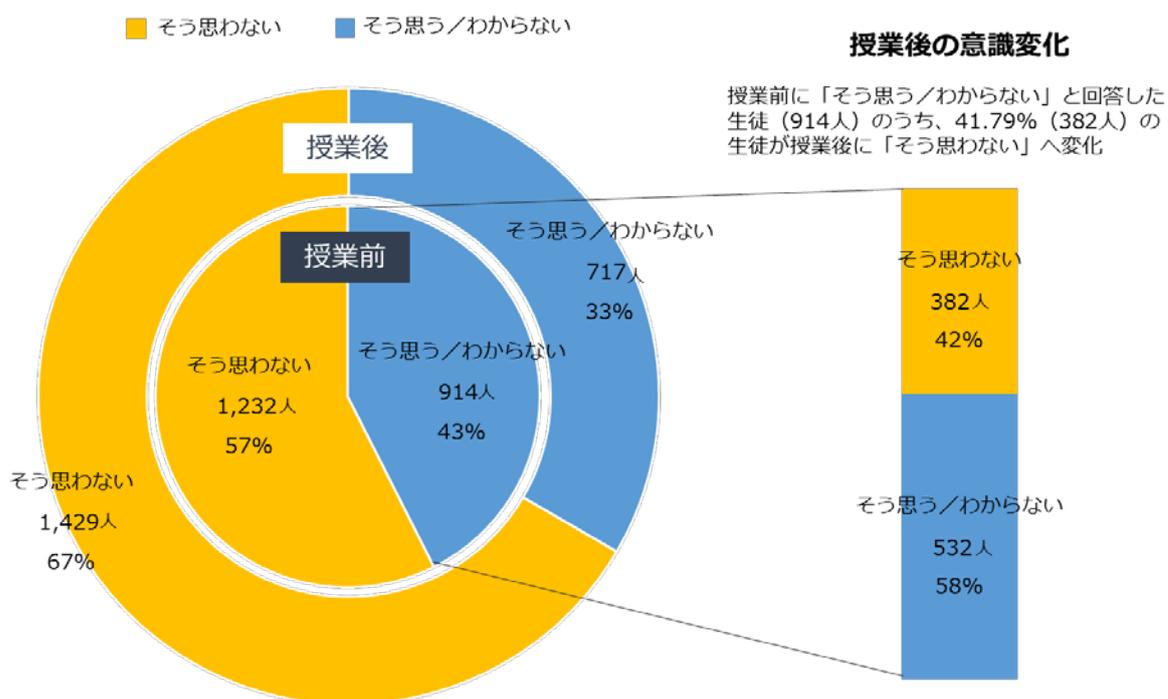
Q7.自分の友達が同性愛者だとわかったら、抵抗を感じる

(有効回答数 2,146人)



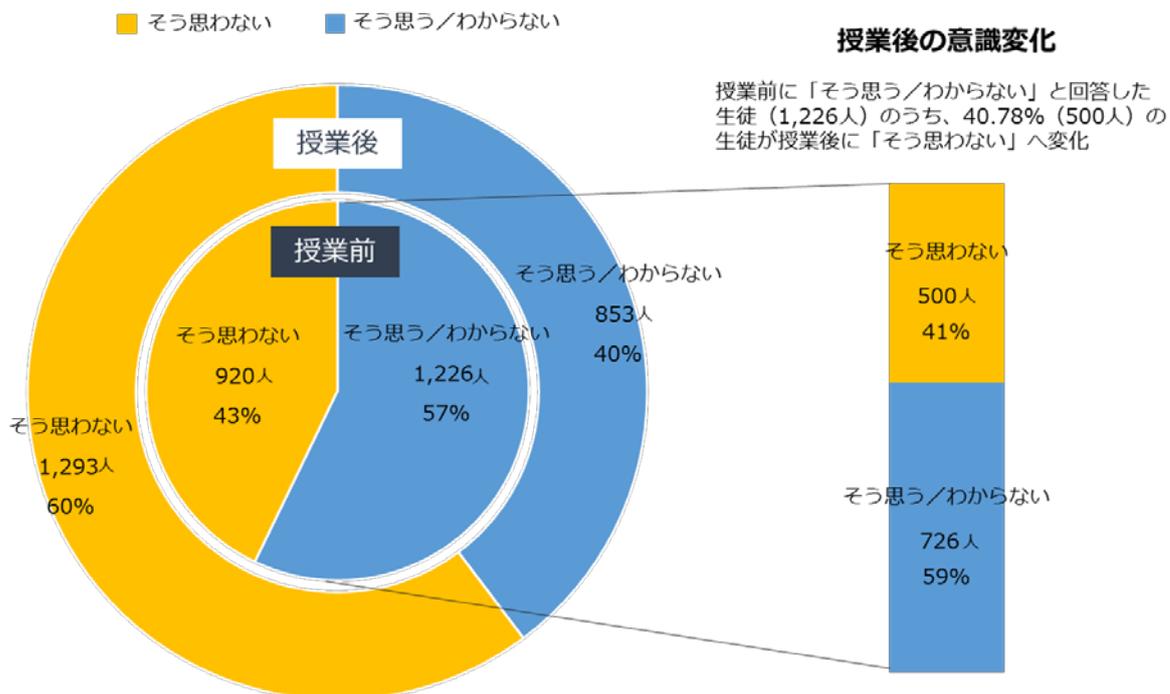
Q8.自分の友達が性同一性障害だとわかったら、抵抗を感じる

(有効回答数 2,146人)



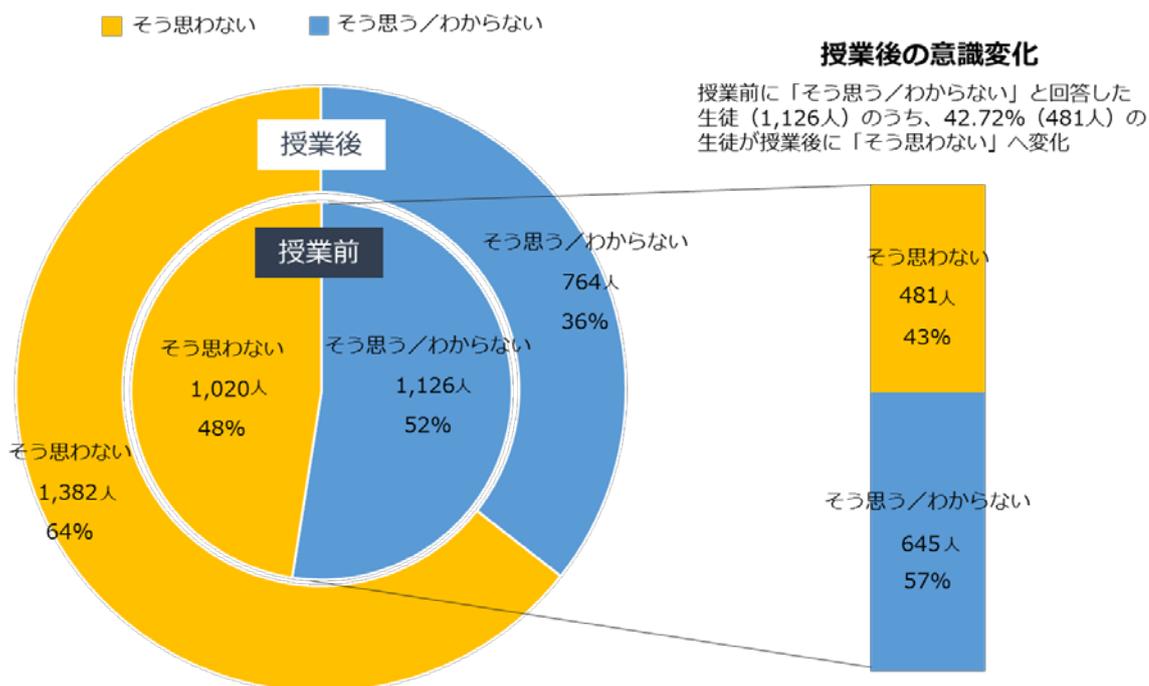
Q9.正直な気持ちとして、男性の同性愛のことは理解できない

(有効回答数 2,146人)



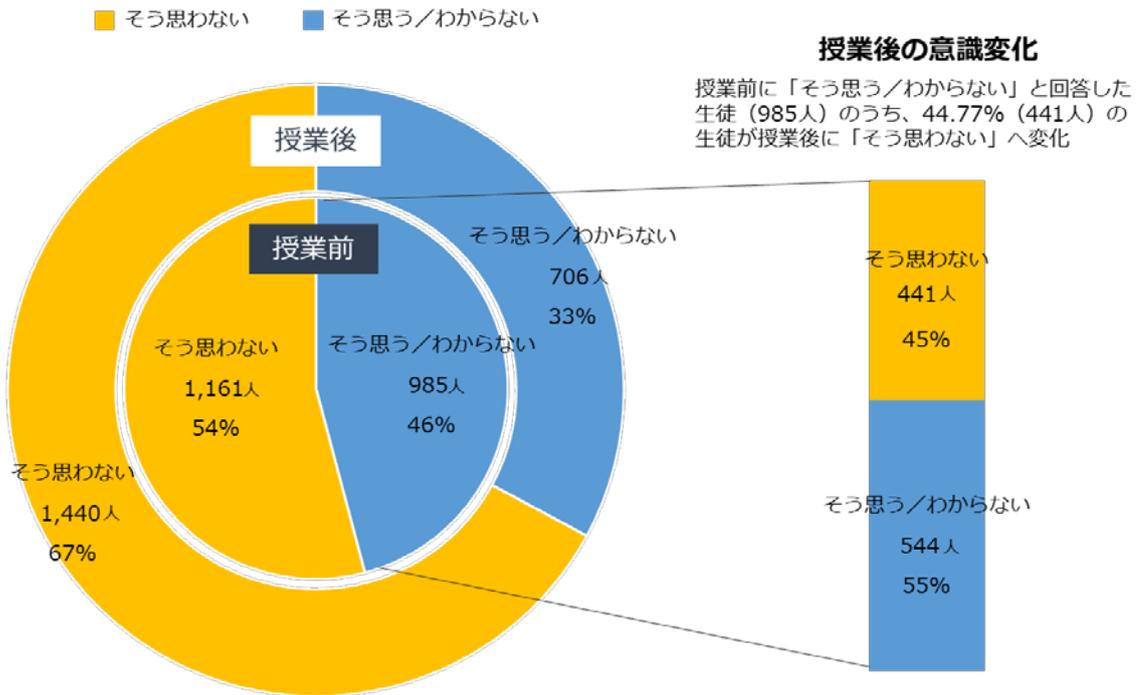
Q10.正直な気持ちとして、女性の同性愛のことは理解できない

(有効回答数 2,146人)



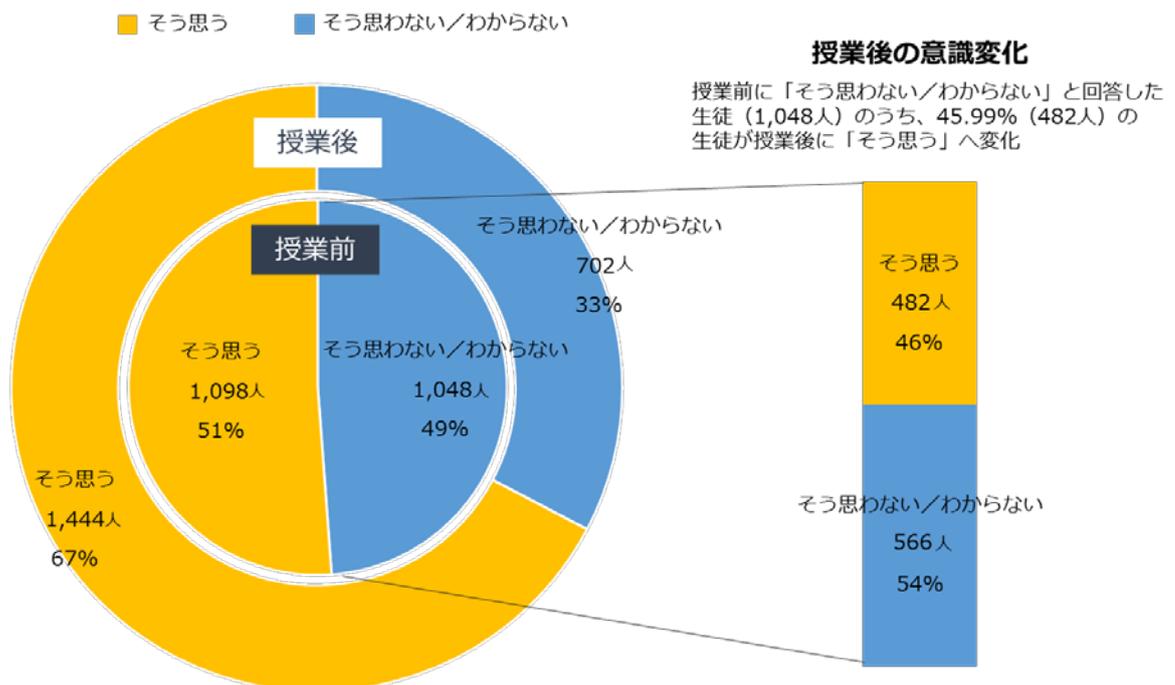
Q11.正直な気持ちとして、性同一性障害のことは理解できない

(有効回答数 2,146人)



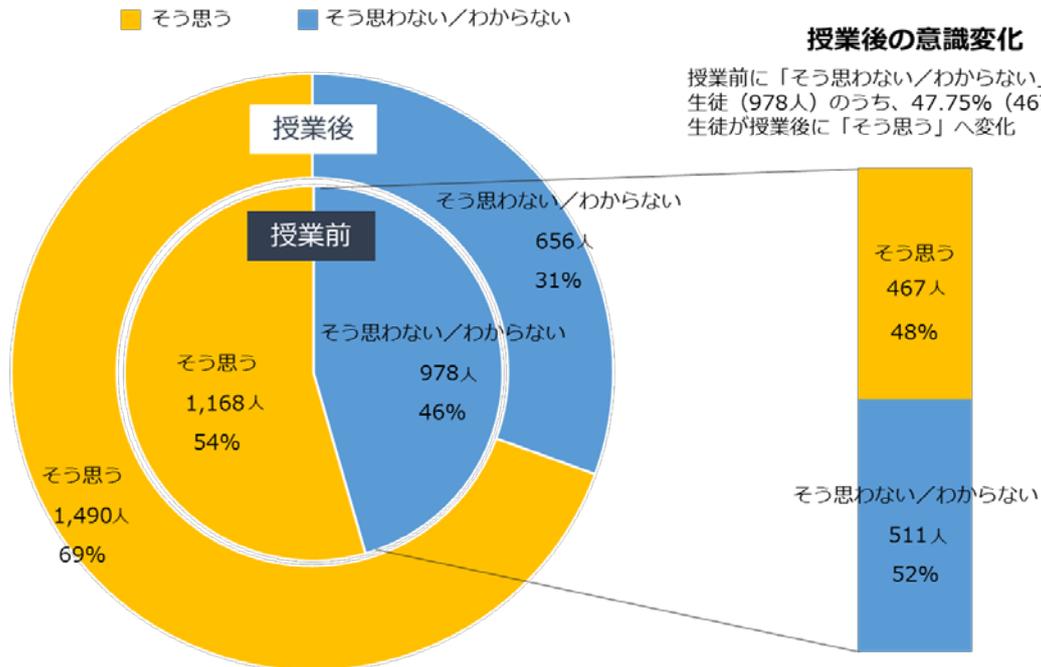
Q12.友達から同性愛をカミングアウトされたら、受け入れられる

(有効回答数 2,146人)



Q13. 友達から性同一性障害をカミングアウトされたら、受け入れられる

(有効回答数 2,146人)



Q14. 「ホモ、レス、おかま」などの発言は差別語だ

(有効回答数 2,146人)

